



ぐるり庄原 カメラ レポート



全国での活躍を期待

全国大会へ県代表として2選手が出場

2月19日(日)から群馬県で開催された国民体育大会冬季大会スキー競技会に、庄原市から坪田泰江さん(東城町)と高橋綾菜さん(西城町)が、県代表として出場されました。

2月13日(月)には壮行式が行われ、市や体育協会など関係者が出席し、出場する2人を激励。決意表明をした坪田さんからは、「日々トレーニングを重ねてきました。大会では、庄原市民の代表として精一杯滑りたい」と力強い言葉が聞かれました。また高橋さんは、3月23日(木)から北海道で開催される全国高等学校選抜スキー大会にも出場されます。おめでとうございます。



出場されるお二人に激励の花束



スポーツを通じた元気で明るい地域づくりを

庄原さくらスポーツクラブが発足

2月25日(土)、ふれあいセンターで、総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」の設立記念式典が開催されました。

このクラブは、スポーツを通じた健康づくり・仲間づくり・地域づくりを目指して結成されたもので、バドミントンや卓球、エアロビクスなど11種目を設け、市民を対象に参加者を募っています。



桜色のロゴマークがお目見え

設立記念式典では、主催者の門田三雄さんからあいさつがあった後、桜をイメージしたクラブロゴと、「元気の貯"筋"しませんか」というキャッチフレーズをあしらったクラブ旗を披露。その後は、記念講演として、広島カープの前2軍監督である木下富雄さんの講演もあり、クラブのスタートを盛大に飾りました。

クラブに参加してみたいという方は、事務局(電話0824-72-8000)までお気軽にお問い合わせください。多くのご参加をお待ちしています。



現役時代の体験や現在の思いなどを話された木下さん



姉妹縁組で特産品の交流

第3回大崎上島町産業フェスティバル

2月4日(土)・5日(日)の2日間、庄原市と姉妹縁組を結んでいる大崎上島町で第3回産業フェスティバル「すみれ祭り」が開催され、高野地域からは8人の関係者が参加し、特産品を販売し交流を深めました。

この交流は、旧高野町と旧木江町の姉妹縁組を引き継いだもので、参加者からは「毎年楽しみにしているんですよ」と感想が聞かれました。当日は、りんごのパウンドケーキや源流こしひかり、大根のハリハリ漬けなど、山の幸を求める多くの人で会場はにぎわいました。

また、この2日間には、高野地域で第9回広島県雪合戦大会も開催され、大崎上島町からはバザーが出店。雪合戦に訪れた人は、カキやエビなど新鮮な海の幸を味わっていました。



姉妹縁組をしている3団体が参加した「すみれ祭り」



雪を楽しむ一日

第4回比和町雪まつり

2月26日(日)、休暇村吾妻山で、比和町観光協会が主催する第4回比和町雪まつりが開催されました。

当日の会場には、市内外から参加者約120人が集まり、冬の寒さを吹き飛ばすほどの盛り上がり。大会のメインイベントである「雪だるまコンテスト」には、グループや家族の13チームが参加。つくられた雪だるまは、チームごとに個性あふれるもの、地域の特色あるものなど力作ぞろいで、審査の結果、最優秀賞には香川県から参加された家族のチームが選ばれました。



ユニークな雪だるまがいっぱい

また当日は、かんじきや竹スキーなどの無料体験、しし汁・ぜんざいの無料配布もあり、参加者は冬の吾妻山を満喫した一日となりました。



表彰状を受け取るコンテスト受賞者



里山に咲く花飾り

とうろう菓子づくり

2月15日(水)、総領高齢者活動センターで、老人クラブ連合会総領支部の有志の皆さんがとうろう菓子づくりに取り組みました。

とうろう菓子は、春の訪れの遅い山里の桃の節句の彩りとして、ひな壇に飾られていたものです。一時期は途絶えていたものを復活させてから、今年で16年目を迎えました。とうろう菓子は猫柳などの枝に飾りますが、その素朴な雰囲気を楽しむために買い求めるファンも多く、また、節分草の公開時期と重なるためお土産としても人気があります。この日は、ラジオ番組への出演や備北丘陵公園からのイベント出演依頼などもあり、作業場はひときわにぎやかな雰囲気でした。



熟練の技で次々と作られる色とりどりのとうろう菓子



子どもたちと地域の安全を守る

明神町「明寿会防犯パトロール隊」

西城地域明神町の高齢者が組織する「明寿会」は、地域の子もたちを犯罪から守ろうと、昨年7月に「明寿会防犯パトロール隊」を結成しました。現在も、毎週水曜日の下校時間にあわせて、3人から5人のグループで子どもたちと通学路を同伴し、やさしく見守りながら声かけを行っています。

西城交番からの依頼がきっかけで始まったこの活動では、パトロールに併せて、一人暮らしのお年よりの家庭を訪問して「声かけ運動」も行っています。

子どもたちからは、「帰りながら、話をするのがとても楽しい」、「安心して下校できる」といった声が聞かれており、メンバーの代表の方は、「この活動が他の地域にも広がって、子どもたちが安心して歩けるようなまちづくりができれば」と思いを語ってくれました。



地域の人に見守られ、安心して下校する児童



手づくりの作品で楽しい空間づくり

町の中の小さなギャラリー開催



プラスチック容器で作ったかわいいひな飾り

2月7日(火)から16日(木)までの間、下本町のポケットパークで、東城小学校4年生56人による「町の中の小さなギャラリー」が開催されました。

地域の建築物を利用したまちづくりの一環として開催されたこの取り組みでは、児童が班ごとにテーマを決め、見る人が楽しくホッとできる空間作りのために、作品づくりからレイアウトまでみんなで話し合い、工夫しながら仕上げた作品を展示。

4年生の松井久美子さんは、「宇宙をテーマにした作品を作りました。たくさんの人に見てもらってすごくうれしかったです」と話してくれました。

なお展示された作品は、3学期の間、東城小学校体育館に展示されますので、ぜひご覧ください。



みんなで作品を鑑賞



昭和30年代の映写機が復活

口和郷土資料館で映画上映会

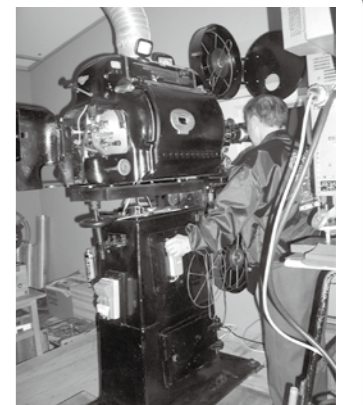


映画を楽しむ来場者の皆さん

2月18日(土)、口和郷土資料館で映画上映会が開催されました。上映会に使用された映写機は、昭和30年代に口和町永田の映画館「中央館」で活躍した35ミリ映写機で、2年間かけて管理人の安部さんの技術により復活しました。

当時と同じアーク光源を使用した上映は、現在では全国でも口和郷土資料館でしか見ることができません。当日は約100人の来場者が映像を楽しみ、「なつかしかった」、「また見たい」など感想が聞かれました。

アーク光源使用のなつかしの映写機は今後も活躍する予定で、開館日には鑑賞することができます。詳しくは庄原市口和郷土資料館(電話 0824-87-2230)まで。



昔懐かしい映写機